

第5回
姉妹自治体交流表彰
(総務大臣賞)

受賞団体事例紹介

平成23年5月13日
総務省
財団法人自治体国際化協会

姉妹自治体交流表彰の概要

1 事業の目的

本表彰事業は、日本の自治体と海外の自治体との姉妹自治体提携に基づく交流活動のうち、創意と工夫に富み、地域の振興に資するような取組を行っている団体を表彰し、広く全国に紹介することによって、姉妹自治体交流の更なる活性化を図り、もって、地域の国際化に資することを目的に、平成18年度から毎年度実施しております。

2 主催

総務省、財団法人自治体国際化協会

3 表彰対象

先進性や独自性、継続性、活発性、協働性、成果等の面から優れた姉妹自治体交流の取組を行っている、都道府県、政令指定都市、その他の市区町村、地域国際化協会、国際交流協会等の民間非営利団体を対象とします（いずれも各都道府県、政令指定都市から推薦を受ける必要があります。）。

4 賞の内容

総務大臣賞 3団体以内（その他、審査委員会特別賞を授与する場合があります。）

5 応募・審査

都道府県及び政令指定都市から推薦を受けた団体について、別途設置している「姉妹自治体交流表彰審査委員会」（委員長：中邨章 明治大学政治経済学部名誉教授）における審査を経て、総務省及び財団法人自治体国際化協会が受賞団体を決定します。

⇒第5回表彰事業では、15団体から応募があり、厳正な審査の結果、以下の3団体を「総務大臣賞」として決定しました。

【総務大臣賞】 高崎市、金沢市、宮城・ベラルーシ協会

6 その他

次回第6回の表彰は、平成23年7月以降に各自治体（国際交流担当課）を通じて募集する予定です。詳細は、以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

【問い合わせ先】

財団法人自治体国際化協会 交流支援部交流親善課

住所：〒102-0083 東京都千代田区麹町1丁目7番 相互半蔵門ビル6階

電話：03-5213-1723 FAX：03-5213-1742 E-mail：shimai@clair.or.jp

URL <http://www.clair.or.jp/j/exchange/shien/hyoushou.html>

👑 総務大臣賞 👑

高崎市

| 提携先 | 提携年月日 |
|-----------------|---|
| ① バトルクリーク(アメリカ) | 1981年7月1日  |
| ② サントアンドレ(ブラジル) | 1981年10月2日  |
| ③ 承德(中国) | 1987年10月6日  |
| ④ プルゼニ(チェコ) | 1990年8月1日  |
| ⑤ モンテルパ(フィリピン) | 2006年10月28日  |

姉妹友好都市間地球市民環境会議

| 地域の概要 | 交流事業の概要 | | | | | | | | | | | | |
|---|--|----|------------------|----------------------|-------------------|--------------------|---------------------|-----------------------|-------------------|-----------------------|-------------------|----------------------|---|
| <div style="text-align: center; background-color: #003366; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">高崎市</div>  <p>◇人口：374,997人（H23.3.31） ◇面積：459.41km² ◇概要：古くから中山道などの諸街道が結節する交通の要衝として、近年ではJR上越・長野新幹線などの鉄道、関越・上信越・北関東自動車道などが行き交い、石川県金沢市と友好交流都市協定を結ぶなど、太平洋と日本海を結ぶ交流拠点都市として発展。2011年4月に中核市となる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 1995年に開催した「第2回高崎サミット」で、高崎市とその姉妹友好都市で、環境を共通のテーマとして、各都市の取り組みや課題を調査研究する「国際交流環境プログラム」を立ち上げ、1996年から1年1都市持ち回りで合同会議を開催してきた。 ● さらに、2000年に開催された「第3回高崎サミット」では、1996年からの5年間の活動や成果を振り返り、行政だけでなく市民団体・企業・教育機関がともに地球環境を考え、ともに行動し、環境と人が共生する「地球市民の都市（まち）」の確立を目指すという基本理念が共同宣言された。 ● そして「国際交流環境プログラム」を発展させ、「地球市民環境会議」として再び1年1都市持ち回りで開催することとし、環境を主要なテーマとしながら、観光や文化など広がりある多様なまちづくり戦略を柱に、環境問題の解決と各都市の持続可能な発展を目指して、現在も会議を継続して開催している。 ● また、毎年10月27日を、市民一人ひとりが地球環境を考え、行動する姉妹友好都市共通の記念日「地球市民の日」として制定し、各市で記念事業や環境を考えるイベントを実施している。 | | | | | | | | | | | | |
| <div style="text-align: center; background-color: #800000; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">姉妹友好都市</div>  <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">人口</th> <th style="text-align: left;">面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 53,364人（2000年）</td> <td>113.1km²</td> </tr> <tr> <td>② 667,891人（2007年）</td> <td>175km²</td> </tr> <tr> <td>③ 3,610,000人（2004年）</td> <td>39,519km²</td> </tr> <tr> <td>④ 164,180人（2003年）</td> <td>137.65km²</td> </tr> <tr> <td>⑤ 452,943人（2007年）</td> <td>46.70km²</td> </tr> </tbody> </table> | 人口 | 面積 | ① 53,364人（2000年） | 113.1km ² | ② 667,891人（2007年） | 175km ² | ③ 3,610,000人（2004年） | 39,519km ² | ④ 164,180人（2003年） | 137.65km ² | ⑤ 452,943人（2007年） | 46.70km ² | <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"><u>評価のポイント</u></div> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 姉妹提携をしている南米、北米、欧州、アジアの各都市間で「環境」という世界共通のテーマについて取り組み、「地球市民環境会議」を持ち回りで開催することによって、継続的な発展に向けた基盤が作られている。 ⇒ NPO法人が行政と市民・企業との間に立って会議をコーディネートするなど、多様な主体が交流の主役として積極的に関与している。「子ども会議」や「地球市民の日」におけるイベント等、草の根レベルの交流が浸透している。 ⇒ 特定者間完結型カーボンオフセットの取組等、先進的な分野において調査研究が行われており、共同で取り組んでいる相手方自治体においても高い評価を得ている。 |
| 人口 | 面積 | | | | | | | | | | | | |
| ① 53,364人（2000年） | 113.1km ² | | | | | | | | | | | | |
| ② 667,891人（2007年） | 175km ² | | | | | | | | | | | | |
| ③ 3,610,000人（2004年） | 39,519km ² | | | | | | | | | | | | |
| ④ 164,180人（2003年） | 137.65km ² | | | | | | | | | | | | |
| ⑤ 452,943人（2007年） | 46.70km ² | | | | | | | | | | | | |



5市間国際交流環境プログラム高崎大会
(2000年 高崎市)



子ども会議参加者の交流
(2002年 サント andre レ市・ブラジル)



環境教育視察(土壌への影響)
(2005年 バトルクリーク市・アメリカ)



第4回高崎サミット
(2006年 高崎市)



各市代表による環境活動報告
(2007年 承德市・中国)



学校での子どもたちとの交流
(2009年 プルゼニ市・チェコ)

【問い合わせ先】

群馬県高崎市市長公室秘書課国際交流担当

住所：〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1

電話：027-321-1201 FAX：027-330-1819

E-mail：intl@city.takasaki.gunma.jp

URL：http://www.city.takasaki.gunma.jp/



総務大臣賞



金沢市

提携先:ナンシー市
(フランス共和国)

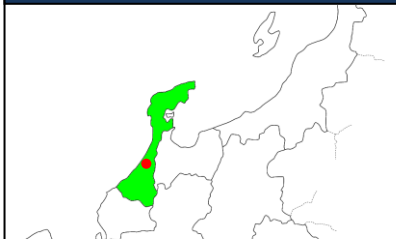
提携年月日:1973年10月12日



フランス姉妹都市ナンシー市との友好関係の推進

地域の概要

金沢市



◇人口:461,762人(H23.4.1)

◇面積:467.77km²

◇概要:日本列島のほぼ中央に位置。約400年の間、戦災等を受けておらず、歴史的なまちなみ、伝統文化が息づく。周辺には高等教育機関が集積され、学術・文化を基盤とした多数のものづくり産業が存在している。2009年1月「歴史都市」に認定され、同年6月には、ユネスコ創造都市ネットワークに、クラフト分野で登録された。

ナンシー市



◇人口:100,000人

◇面積:15km²

◇概要:フランス東部ロレーヌ地方の中心都市。15世紀のスタニスラス公の善政を契機に城下町として発展。機械、織物、クリスタルガラス等の産業が盛ん。19世紀から20世紀初頭にかけて世界に広く影響を及ぼした芸術運動アール・ヌーボーの発祥地。まち中心部のスタニスラス広場とその周辺は、18世紀ヨーロッパ建築としても有名。

交流事業の概要

- 金沢市とナンシーは、昭和48(1973)年10月12日の提携以後、両市の特徴である文化・芸術などを切り口とする人的な交流を積み上げている。提携直後の1974年に開始した留学生相互派遣事業を開始以来36年間途切れることなく継続させており、最近ではフランス人大学生のインターンを受入れるなど、両市の若い世代の育成にも努めている。
- また、1992年に金沢美術工芸大学とナンシー美術学校では教員交流を開始。以来19年間継続しており芸術関係者の交流が両市の文化・芸術の発展に寄与してきている。
- 近年は、2008年10月に姉妹都市提携35周年を迎えていた金沢市・ナンシー市の両市市長が連携し、日仏交流150周年を記念し、姉妹・友好関係にある日仏自治体が「地方ガバナンスと持続可能な発展」をテーマに議論を行う「第1回日仏自治体交流会議」を実施した。
- 2010年5月には、第1回会議の成果を更に発展させるべく、金沢市にて「第2回日仏自治体交流会議」を開催し、第1回目の会議を15も上回る日仏44自治体の参加を得るなど、「日仏自治体交流会議」の相互開催を通じて、従来型の1対1の自治体間交流の枠組みを超えた新しい多面的な自治体交流のモデルを提起している。

評価のポイント

- ⇒ ナンシー市と長年の交流を継続しながら、フランスの自治体と姉妹提携をしている日本の自治体を巻き込んで、多面的な議論を展開する機会を作り出し、相互の発展を目指すという取り組みは先取性があり、日仏自治体交流会議の成功も、金沢市がナンシー市と強い絆を築いてきたからこそと言える。
- ⇒ 日本におけるフランスの自治体との交流が全般的に下降傾向にある中で、文化・芸術を主な交流のテーマとして、金沢市の特色を生かしながら、教員交流や交換留学生、美術館交流等幅広い交流を継続している。
- ⇒ 金沢市がユネスコに認定されている「創造都市」や「ものづくり」に代表される地場産業を姉妹自治体交流と巧みに融合させ、産業の発展を目指すという戦略的な取り組みを行っている。



第2回日仏自治体交流会議
(於:金沢市 2010年5月)



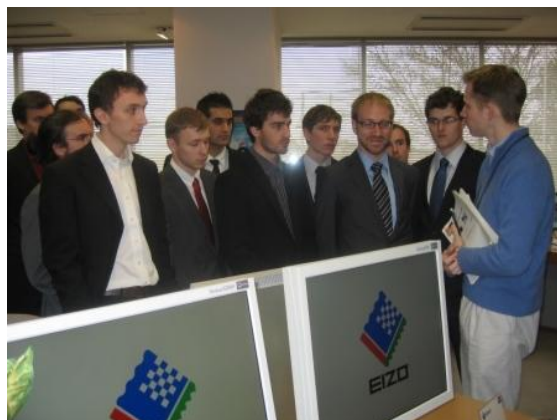
第2回日仏自治体交流会議で文化プログラムとして披露した「加賀鳶」はしご登り



第1回日仏自治体交流会議
(於:ナンシー市 2008年10月)



金沢の漆技術を学ぶナンシー交換留学生



金沢で企業研修を受けるナンシー市の学生



研修報告を行うナンシー市の学生(右端)

【問い合わせ先】

石川県金沢市都市政策局文化交流部国際交流課
住所：〒920-8577 石川県金沢市広坂1丁目1番1号
電話：076-220-2075 FAX：076-220-2069
E-mail: kokusai@pref.kyoto.lg.jp
URL : <http://www4.city.kanazawa.lg.jp/>



総務大臣賞



宮城・ベラルーシ協会

提携先: ミンスク市(ベラルーシ共和国)

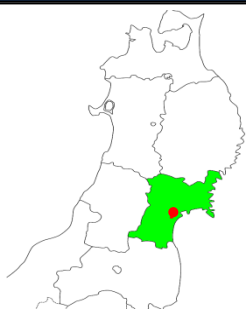
提携年月日: 1973年4月6日



国際姉妹都市ミンスク市との市民交流事業

地域の概要

宮城・ベラルーシ協会 (仙台市)



◇人口: 1,046,654人 (H23.3.31)

◇面積: 788.09 km²

◇概要: 宮城県中部に位置する同県の県庁所在地。東北地方における経済・行政の中核都市。「杜の都」として全国的に知られており、ケヤキ並木や広瀬川、青葉山等の豊かな自然環境を誇る。多くの大学や研究機関が集まることから「学都」とも呼ばれ、世界最先端の知識や技術を生み出し続けている。

ミンスク市



◇人口: 1,830,700人

◇面積: 305.47 km²

◇概要: ベラルーシ共和国の首都で、モスクワ(ロシア共和国)の西747kmに位置する。ロシア圏最古の街のひとつで、およそ930年の古い歴史と伝統を持つ。現在は、文化と工業の街として発展を続けており、特に工業生産が盛んである。また、大学や研究機関、美術館などの文化・芸術機関が充実している。

交流事業の概要

- 1962年に来仙されたソ日協会事務局長から姉妹都市の相手としてミンスク市を推薦されたことを機に交流がスタートし、1973年に国際姉妹都市提携に至った。1986年のチェルノブイリ原発事故の際、仙台市民からベラルーシへ医療支援が行われたことで、交流が活発となった。その後、ベラルーシの独立を機に1995年「宮城・ベラルーシ協会(以下『ベラ協』という)」が発足した。
- 以来、ベラ協は、仙台市、(財)仙台国際交流協会とともに、相互訪問や小学校間の交流、スポーツ交流など、草の根の市民交流を積み重ねている。2008年には、姉妹都市提携35周年を記念してミンスク市紹介イベントが三者共同で開催(主催:仙台市、(財)仙台国際交流協会)され、好評を博した。三者が密に連携し、知恵や技術を出し合うことで、市民を主役とした多彩な交流の展開へつながっている。
- ミンスク市においては、両市の交流にちなんで、市内中心部の公園を「仙台公園」と命名している。ベラ協を中心とした市民訪問団がミンスク市を訪れた際には、仙台公園へ「友好の時計」を寄贈(2002年)したほか、桜の苗木28本を植樹(2007年)した。仙台公園は、両市の市民交流のシンボルとして、多くのミンスク市民に親しまれている。
- なお仙台市とミンスク市の国際姉妹都市関係は、日本とベラルーシとの間で唯一提携されているものである。ベラ協の市民交流活動は、単なる都市間交流にとどまらず、両国間の友好関係構築においても非常に大きな役割を果たしている。

評価のポイント

- ⇒ 仙台市は日本で唯一、ベラルーシ共和国の自治体(ミンスク市)と姉妹都市提携をしており、日本国内において情報があまりないため、なじみが薄い国との交流を継続するために様々な努力を重ねている。原発事故の支援を契機に交流が活発化したという点もユニークである。
- ⇒ 市民有志からなる宮城・ベラルーシ協会が市民交流の中心的な役割を担っており、この協会が築き上げた相手国との信頼関係やネットワークが、両市の市民レベルでの理解を深めることに大いに役立っている点が高く評価できる。
- ⇒ 医療支援や桜の植樹・庭園整備、マラソン大会・新体操コーチ派遣等、幅広く充実した交流を継続している。



ミンスク市の仙台公園へ「友好の時計」を寄贈



仙台公園に桜の苗木を植樹



姉妹都市提携 35 周年記念事業のミンスク写真展



毎年5月に仙台市で開催される仙台国際ハーフマラソンに参加するミンスク市の選手



ベラルーシ国立体育大学から私立仙台大学へ派遣された新体操コーチ



東日本大震災被災者のためにミンスク市民が献花している仙台公園の様子

【問い合わせ先】

宮城・ベラルーシ協会事務局

住所：〒981-1101 仙台市太白区四郎丸字大宮26-3 仙台ビーナス会

電話：022-241-5990 FAX：022-241-5929

仙台市市民局市民協働推進部 交流政策課

住所：〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1

電話：022-214-1261 FAX：022-211-1917

E-mail：kik002040@city.sendai.jp

